

2014年5月22日／浪 宏友ビジネス縁起観塾

## 後ろ姿で人を導く

資料：庭野日敬著『法華三部経 各品のあらましと要点』（佼成出版社）「妙莊嚴王本事品」

### 1. 妙莊嚴王本事品の概要（庭野日敬著『法華三部経 各品のあらましと要点』p. 216）

この品は、遠い昔におられた妙莊嚴王（みょうしょうごんのう）という国王と、その妃の浄徳夫人（じょうとくぶにん）と、浄蔵（じょうぞう）・浄眼（じょうげん）というふたりの王子の物語です。

### 2. 妙莊嚴王の故事（同p. 216～218）

#### (1) 王子たちの願い

妃とふたりの王子は仏法に帰依していましたが、王はほかの教えに心酔していましたが、なんとかして仏法のありがたさを知らせてあげたいとおもっていました。

たまたま雲雷音宿王華智仏（うんらいおんしゅくおうげちぶつ）という仏さまが、法華経という至高の教えをお説きになることを聞き、王子たちはぜひ父の王をもさそって聴聞にゆきたいと念願し、母の妃に相談しました。

#### (2) 母のアドバイス

すると妃は、「父上の心を動かすには、おまえたちが奇跡をあらわしてみせるほかはありません」と示唆しました。

#### (3) 奇跡をみせる

そこで王子たちは父王（ふおう）の前にゆき、空中に飛びあがって、空の上を歩いたり、頭や足の先から水や火をふきだしたり、地のなかに自由自在にもぐったり、さまざまな不思議を見せました。

#### (4) 父王のおどろき

父王はびっくりして、「いったいだれにそんな神通力を習ったのか」と聞きますと、「法華経という教えをお説きになる雲雷音宿王華智仏がわたくしどもの師です」と答えます。王は、「その仏さまにわたしもお目にかかってみたい」といいだしました。

#### (5) 出家を願いゆるされる

もちろん、王子たちは大喜びしましたが、この機会をのがさず、出家してずっと仏さまのみもとで仏道を学びたいと、母の妃にお願いし、それをゆるされます。

#### (6) こぞって法を聞きに行く

こうして、王子たちの感化によって、王も、妃も、群臣や女官たちも、またおおくの国民も、仏さまのみもとへ法を聞きにまいりました。

## (7) 妙莊嚴王の授記

仏さまは、ただちに妙莊嚴王に「かならず仏の悟りを得るであろう」という保証をあたえられました。そこで王は、国を弟にゆずり、妃およびおおくの家来たちと共に出家したのです。

## (8) 妙莊嚴王の述懐

ながいながい修業ののち、ひじょうに高い境地にたった王は、仏さまにむかって、「わたくしがこうになりましたのも、ふたりの子どものおかげでございます」ともうしあげると、仏さまも「そのとおりです。善い友・善い指導者に会うことは、まことに尊い因縁です。その教化と指導があればこそ、仏を見ることもできれば、仏の智慧を得たいという発心もするのです」とおおせになりました。

## 3. 因縁のたいせつさ (庭野日敬著『法華三部経 各品のあらましと要点』p. 218)

## (1) 前世から今世へ

ほんとうに〈因縁〉というものはたいせつに考えなければなりません。われわれも前世で妙法を實踐し、その徳を〈因〉として、今世でよい〈縁〉(善知識)に会えたからこそ、今日こうして法華経を学べるのです。

## (2) 今世から来世へ

ですから、今世で一人でも多くの人に妙法をお伝えしていくことが、来世でまた、この妙法に会うことのできることの最大の保証となるわけです。このことを妙莊嚴王の本事(因縁)から知るということが、この品の第一の要点であります。

## 4. 身近な人をみちびくには (同p. 219~220)

## (1) 奇跡の意味

二王子が演じた奇跡というのは、仏法を学び、信ずることによって、人格が一変し、したがって日常の行ないがすっかり変わったことを意味しているのです。そして、そういう行ないを父に見せたというのは、実際の行為によって仏法の真価を証明し、父の発心を誘いだしたということにはほかなりません。

## (2) 身をもってする実証

ひとを仏法にみちびくには、それを説いてあげるのもむろんたいせつなことですが、身をもってする実証が第一の決め手となります。とくに、家族や職場の人をみちびくには、これを欠いてはならないのです。

(3) 行いが伴わなければ

どんなに法を説いてみても、本人の行ないが感心したものでなければ、だれもなっとくしないばかりか、かえって仏法を軽蔑したり、疑ったりすることになりかねません。この説話には、そのような意味がこめられているわけです。

(4) 柔軟な心

実証をすすめた母の妃も賢明でしたが、既成観念を白紙にもどして、真理（妙法）に耳を傾けようとした父の王もえらい人でした。このような柔軟な心の持ち主こそ、妙法をつかむことができる人です。

5. 王子たちの奇跡（庭野日敬著『新釈法華三部経 9』p. 253～255）

(1) 自由自在な心境

〔奇跡〕数十メートルも虚空の上にとびあがり、空中を歩いたり、止まったり、すわったり、横になったりしてみせました。

〔奇跡の意味〕仏法によって〈空〉ということを知れば、現象にとらわれぬ自由自在な心境になることを象徴しています。

(2) 心が変われば現象が変わる

〔奇跡〕頭の上から水を噴きだし、足の先から火を噴きだすかとおもうと、こんどは足の先から水を噴出し、頭の上から火を噴出します。

〔奇跡の意味〕三界は唯心の所現であるということをお示ししているのです。つまり一念三千ということで、おのれの一念によって、現象はどのようにでもかわってくるというわけでありませぬ。

(3) 本質と現実を正しく観る

〔奇跡〕空いっぱいになるような大きなからだになったかとおもうと、豆粒のように小さくなります。

〔奇跡の意味〕人間の本質と現実との両面を正しく観ることのすばらしさをあらわしているのです。本来の自分は久遠本仏と一体であるということをおもえば、自分が宇宙いっぱいの存在であるという自覚をえることができます。しかし、現実の一衆生としてみれば、まことに小さな存在であるということも正しく認識されます。そのことをいってあるのです。

(4) 空を悟り現実を踏まえて生活を正す

〔奇跡〕空中でパッと姿を消したかとおもうと、地面にスーッとあらわれてきます。

〔奇跡の意味〕空と言うことを悟っていても、それにとらわれて現実を無視することなく、あくまでも現実を踏まえてものを考え、生活を正していく仏法のすがたを象徴しているのです。

(5) 自由自在に人を教化する

〔奇跡〕まるで水が浸みこむように地中にはいっていかとおもうと、まるで地面を歩くように水の上を歩くのです。

〔奇跡の意味〕仏法を深く悟ったものは、ひとを教化するのに自由自在であることを示しているのです。どんな頑固な人の心にも、あたかも水が地のなかに浸みこむようにはいっていきことができ、また水のように流動しやすい人の心をも、大地のように安定させることができるというわけです。

6. 指導的立場の人の信仰（庭野日敬著『法華三部経 各品のあらましと要点』p. 220～221）

(1) 王の信仰による感化

もうひとつ重大な問題が、この品には教えられています。それは、王の信仰が、群臣・眷属および国民までも感化したということです。こういう指導的立場にある人が正しい信仰に入った場合、その影響がどれほど大きなものであるか、それは現実の問題としてよく考えなければなりません。

(2) 信仰は個人の自由

信仰はもともと個人の自由で、政治とか権勢とかが介入すると、不純なものになります。

(3) 正しい影響

しかし、衆に尊敬されている指導者が正法の信仰にはいったために、おおくの人たちが自然とそれに感化されていくということは、けっして不純なことではなく、きわめて正しい影響といわなければなりません。ですから、おおくの人の上に立つ人は、どうか正しい信仰を身につけてほしいものです。

(4) 押しつける必要はない

もちろん、それを部下におしつける必要はありません。正法にもとづくその人の気品ある人徳は、かならず多くの部下たちを感化せずにはおかないでしょう。このことも、この品の大きな要

点であります。